

ぐんまこどもの国児童会館

ニコット通信

nicotto tsu-sin!



ニコットちゃん

2005. 1 .15

第8号

発行／
ぐんまこどもの国児童会館



あけましておめでとうございます。

今年も楽しい催し物をたくさん用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

ぐんまこどもの国児童会館 スタッフ一同

こども劇場

「ファミリーコンサート」

NPO法人「ミュージック・フォー・チルドレン」による歌とピアノとバイオリンのコンサートです。読み聞かせとピアノ演奏でおくる、音楽物語などをお楽しみください。

- ◆ 開催日 2月27日(日) ◆ 会 場 多目的ホール
- ◆ 時 間 14:00～15:00 ◆ 定 員 300名(先着順)

こども観劇会

「KOYO MIMÉ LIVE ～爆笑パントマイムライブショー～」

ニューヨークでパントマイムを始め、アジア各地でソロ活動を行う山本光洋さんの不思議で楽しいパントマイムの上演です。



- ◆ 開催日 3月21日(月) ◆ 会 場 多目的ホール
- ◆ 時 間 13:00～14:00 ◆ 定 員 各回312名
- 15:00～16:00 (先着順)

スペースシアター

● ブラネタリウム春番組

星座メルヘンストーリー
～不思議なまちの星占い～

上映期間: 2月5日(土)～6月5日(日)
平日 14:30～
土・日・祝日 13:00～、15:30～



児童健全育成講演会

「豊かな子育てのための親育て」

近年、児童虐待が多発するとともに、子育ての不安や悩みを抱えている方が多いといわれていますが、虐待とはいえないまでも、不適切な養育のため、子どもの発達や生活が健全とは思われないような事例に対する、子育て支援の対応方法を講演して頂きます。



- ◆ 開催日 2月24日(木) ◆ 時 間 13:30～16:00
- ◆ 講 師 庄司順一氏(青山学院大学文学部教育学科教授)
- ◆ 会 場 多目的ホール ◆ 対 象 児童健全育成関係者及び一般
- ◆ 定 員 300名(先着順)
- ◆ 申し込み 1月20日(木)から、お電話か直接来館してお申し込みください。

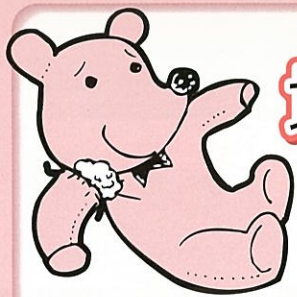
休 館 日

1月… 11日(火)・17日(月)・24日(月)・31日(月)
2月… 7日(月)・14日(月)・21日(月)・28日(月)
3月… 7日(月)・8日(火)・9日(水)・14日(月)・22日(火)・28日(月)



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町480
TEL.0276(25)0055 FAX.0276(25)0059
URL <http://www.sunfield.ne.jp/~kodomo01/>



壊れたおもちゃを治します 「おもちゃの病院」



●「おもちゃの病院」とは

おもちゃの病院は、ボランティアの方々が壊れたおもちゃを修理する事業です。

一昔前までは、手作りのおもちゃが主体であり、また、壊れたおもちゃは治して使ったものですが、現代は、使い捨ての時代へと変化し、おもちゃは買うもの、壊れたら捨てるものといった風潮が強くなり、本来思い出がいっぱい詰まっているはずのおもちゃへの愛着が薄くなりつつあるのではないのでしょうか。

おもちゃの病院は、ものを大切にする気持ちとともに、子ども達のおもちゃへの愛着を大事にして、優しさや豊かな情操を育てていきたいと願いながら実施しております。

① カルテを書いて、問診をします。



② カルテを見て故障原因を判断し、修理します。



③ 正常に動作するかをチェックしてお返しします。



おもちゃの病院で扱うおもちゃは、小学生以下の子どものおもちゃで、家電製品に近いものや、玉が飛び出したり火を使うといった危険を伴うものはお断りしています。その理由は、高度なものや危険を伴うものは専門家(製造したメーカー)に依頼するのがよいとの考えからです。また、アンティークの人形やおもちゃについては、修理後に品物の市場価値に変動がある場合がありますので、ご注意ください。

●おもちゃの病院にかかる前に 其の壱 ～電池チェック～

おもちゃの病院にかかるおもちゃで、電池の消耗が原因というものは約15%を占めます。電池の容量がどれくらい残っているかは、目で見て分かりませんので、電池チェッカーを使って調べるという方法を用います。最近は100円ショップでも売られています。

●おもちゃの病院にかかる前に 其の弐 ～保証書や付属部品を忘れずに～

おもちゃの病院におもちゃを持ち込む際、保証書や遊び方の書いてある箱は一緒にお持ちになると助かります。

保証書や箱はなくしてしまいがちですが、メーカーの問い合わせ先などが書いてありますので、きちんと保管しておくことをお勧めします。

また、ゲーム機やバッテリーで動くのりもの等は、アダプター、バッテリー、ゲームソフト等を忘れずにお持ちください。ゲームソフトをたくさんお持ちの方は、複数持ってきていただくとゲーム機とソフトとどちらが原因なのかがハッキリします。

よかったねー

どう?
治ってるでしょ?

あっ!
動いたよ!!

(10/16、17「ねんりんピックぐんま」でのおもちゃの病院)

●児童会館のおもちゃの病院

■開院日 1月16日(日)、2月20日(日)、3月20日(日)

※毎月第3日曜日を中心に行っています。

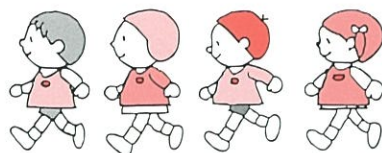
■受付時間 10:00~12:00

※いったんお預かりして修理します。遅いものでも15:00頃にはお返しできますので、遊びながらお待ちください。

■場 所 第2研修室

■費 用 部品を交換するときのみ実費をいただきます。

自立に向けての親離れ・子離れ



—子どもの成長過程と親子のほどよい関係—

成長の過程に応じて、子どもはほどよい距離を保ちながら徐々に親から自立し、親は子どもから徐々に離れていくことが必要です。いわゆる親離れ・子離れです。

<乳児期——分離の基盤としての信頼関係の形成>

人生早期のしっかりした愛着関係の形成なくしては、親子の分離も自立もありません。新生児は、空腹・暑さ・寒さといった不快感を「泣く」ことでしか訴えることはできません。そこで、食事・排泄・清潔などすべて母親によって満たしてもらわなければなりません。母親の自分のことは差しおいても子どもを世話する深い愛情と全面依存の乳児の関係は、精神的にも強固な母子の絆で結ばれ、愛着関係の形成となります。この時期、乳児の中には、全面的に信頼して頼れるという安心感から、基本的信頼感が形成されます。

<幼児期前期——人間関係の拡大が母子分離に不可欠>

独立歩行がはじまる一歳児は、「分離不安」を感じて後追いやしがみついても多くなり、母離れの最も難しい時期です。この時期の母親の存在は、不安をやわらげ、新しい体験を促す「安心基地」として機能します。

そして二歳、探索行動や自己主張などの意志表示がはじまると、子どもにとっては成長期、親にとっては反抗期がやってきます。食事や排泄などの基本的生活習慣のしつけをめぐる親子の対立・葛藤が多くなります。いわゆる第一反抗期は、子どもの自立願望のサインです。親は、子どもがうまくできなくても我慢して自分でやらせること、援助しながらも幼児の意欲を高める働きかけをすることが大切です。

言葉が発達し、友だち慣れする三歳過ぎには、母離れが安定します。しかし、孤立した家庭や父親や友だちとの接触が不足しがちな家庭では、母子離れが難しくなります。

<幼児期後期——親にとって子離れの準備期>

この時期は、体と心が協応して動き、さまざまな遊びや体験をとおして、社会性と共感性、自発性や自律性が育ち、自信ある存在へと成長します。もはや、親が目に見えなくても、心の中でイメージして対話・交流でき、社会的ルールや善悪の判断に従う自己規制や自律性が発揮され、集団生活を楽しむことができるので、自信とプライドを持つ幼児の心を尊重し、小さくても一人前の存在として見守っていける子育ての一段落の時期、親にとって子離れの準備期です。

<児童期——学校・地域との連携が子離れを促進>

家庭から学校・集団生活へ、遊びから学習課題への適応が、児童期の課題です。そのため、規則やルールのあるグループ活動に参加させ、人間関係の技術を体験によって修得させることが大切です。

また児童期は、読・書・算を基礎として、生活言語から思考言語へ、具体的学習から操作的学習へ、機械的暗記から抽象的思考へ、感覚・感情的思考から論理的思考へと「考える力」が飛躍的に伸びる時期です。親は、指示・命令ではなく、子どもが自己判断・自己決定できるような材料を提供できる存在でありたいものです。親子離れは着実に進みます。

<思春期——心理的子離れを支える夫婦関係>

思春期は、親や大人によって形成された自分を、自分の手で作り変えることによって、大人になる「第二反抗期」です。精神的親離れは、親の拒否という形で現れることが多く、時に母親への批判や反抗となって現れます。

また思春期は、第二性徴といわれる身体的変化とともに訪れます。自立への不安は、同性の友人と共有することによって癒されます。友人から認められることで大人としての自己形成を図っていきます。

子どもの思春期は、親の思秋期とぶつかります。大人のモデルとして身近な両親が試される時期でもあります。

<青年期——親離れは、親の子育て姿勢を反映>

青年期の親離れは、性と家離れに象徴される自立の準備期です。愛着の対象は、親から異性へと移行し、異性や他者との絆を確め、経済的な自立を求めて自己の能力を磨き、働く姿勢と生きがいを探求していく、土台作りの時期です。

子どもがいつ、どんな形で親離れしていくかは、子離れを見通した親の子育て姿勢が反映されています。親は、それまでの経済的な支配者から、人生の先輩としての相談者へとその役割を変えます。そして子育てを卒業し、夫婦で生きる将来に視点を移していくことになります。

《参考文献》

- ・中野由美子「親の子離れのプロセス」(『児童心理』2003年5月所収)
- ・小野寺敦子「母子関係はどのように変化するか」(2002年6月所収)

ぐんまこどもの夢大賞 第13回

「ぐんまこどもの夢大賞」は、児童文化の振興を図る目的で、群馬県と当児童会館の運営主体である財団法人群馬県児童健全育成事業団の共催で毎年行っています。今年は18歳未満を対象とした絵画と、小学生以上18歳未満を対象とした童話の2種目を夏休みに合わせて募集を行い、絵画3,349点、童話412点というたいへん多くの皆様から作品をいただきました。

審査の結果、絵画は最優秀賞3点、金賞15点、銀賞23点、銅賞36点、奨励賞110点が、童話は最優秀賞1点、金賞3点、銀賞6点、銅賞8点、奨励賞16点が入賞しました。

ここでは、最優秀賞を受賞したみなさんの作品とインタビューを紹介します。

インタビュー内容

- ① 結果を知ったときの気持ち ② 制作時間 ③ どうしてこの作品をかこうと思ったか
- ④ 次回作品はどんなものを？ ⑤ 将来の夢 ⑥ 保護者からひとこと ⑦ その他

絵画



二子山幼稚園(前橋市)
すだ しゅんき
須田 峻輝さん
「やさしいぞうさん」



- ①うれしかった
- ②1週間に1回を7回くらい
- ③ゾウと遊んでいる。
トラとゾウとどちらがいいか頭で考えた。
はり絵がいいかなと思って先生に教えてもらった。

- ④まだ決まっていない
- ⑤サッカー選手
- ⑥こんな大きな賞で評価されたのは初めてだったのでうれしい。



群馬大学教育学部附属小学校 2年

よこた るり
横田 瑠里さん
「ゆめのばしゃ」



- ①うれしかった
- ②1週間～10日くらい
- ③羽がついている白い馬にのって空にいきたいというイメージで描いた。
- ④まだ決まっていない。でも絵は好き
- ⑤絵描きやさんが美容師さん

⑥がんばってよかったな、やったー！という感じ。

(夏休み中とてもがんばってやっていたので。本人もとても喜んでいました。)



群馬大学教育学部附属小学校 3年

しろた すぐる
城田 卓さん
「夢は昆虫博士」



- ①最初は、先生から聞いて、うれしかった。その後、新聞で自分の作品が載っているのを見てうれしかった。
- ②下絵(構図)は1時間くらいでできました。その後の細かいところに時間がかかりました(2週間くらい)。
- ③昨年虫に興味が出てきて、家でも「オオクワガタ」やいろいろな虫を飼っています。作品に描いてある「ルリボシカミキリ」は、お父さんと昆虫採集に赤城ふれあいの森に出かけた時につかまえて家で飼っていました。でも冬は越せずに死んでしまいました。作品に描いてある「ファール昆虫記」は、学校の図書館で読みました。

④⑤1年生の時は恐竜が好きで絵を描いて金賞を受賞しました。今は昆虫が大好きで、いろいろ興味がかわっています。

⑥(父)小学校の入学後、学校の長期休暇の度に絵日記を書いています。この夏休みは、作品を描いている行程が絵日記になっています(絵日記の絵に、今回の作品ができあがっていく様子が日を追って描かれている)。仕事から帰って絵日記をみると、その日の事がよく分かります。夏休み中の努力が評価されて、本人も自信がついたと思うので、これからも良いところを伸ばしてあげたいと思います。(母)作品を最後まで仕上げて、よく頑張ったと思います。今回の賞も本人のがんばりへのご褒美だと思っています。

童話



桐生市立桜木中学校 3年
きたづめ ゆり
北爪 友理さん

- ①やったー！！
- ②授業で1時間、家に帰ってその日のうちに
- ③いくつか(ある構想の)中で選びました
- ④ファンタジーが好き。
(今までに書いて完成しているのは4作品)
- ⑤(小さい頃から)小説家
- ⑥童話で賞をもらいたいと言っていたので、
受賞してよかったです。

- ⑦普段はどんなものを読むの？ー
いろんなジャンル
- 好きな作家やオススメ作品は？ー
三島由紀夫「花ざかりの森」、江國香織「な
つのひかり」
- マンガは読む？オススメは？ー
読みます。「NANA」(矢沢あい)とか…。

「ぼくとかやぎ」

朝、起きてみたら、ぼくのとなりに真っ白なこやぎがねむっていた。

ちいさなほそいねいきをたてて、ぼくのとなりで。すこしふれてみると、それはなめらかで、あたたかだった。

これは、ゆめだろうか。なぜぼくのとなりにこやぎがいるのだろう。ここはたしかにぼくのへやである。ミルクいろのかべがみの、あおぞらいろのカーテンの、曲線ばかりの机と、うすももいろの笠をもつ、ライトの、背の高いほんだなたちにしはいされている、ぼくのへや。に、こやぎがいる。

とりあえず、ベッドから出よう。そして、顔をあらって、きがえて、朝食をとろう。そうすれば、ゆめからさめるかもしれない。ゆめをみるのは、ねむりがあさくなっているし、うごこのだから。

れいそうこを開ける。れいそうこの中身もげんじつと変わらないんだ。きょうは、めだまやきにしよう。パンにのせてたべよう。

こんがりやけたパンに、バターをたっぷりぬりながら、もしも、とおもう。もし、これがゆめじゃなかったら。こやぎはなにをたべるんだろう。どこでねむるんだろう。おさらにおちためだまやきのかけらをひろって口に入れた。ふと顔をあげると、目の前にこやぎがいる。真っ白なそのからだは、おかしいくらい、まわりのけしきから、うきたっていた。しかし、ちいさなくちのまわりの毛はべとべとと、よこれていた。

やがてそのくちが、もそもそとうごく。

「たべてしまったの。」

「なにを？」

ぼくがたずねると、こやぎはくちごもってしまった。いったいなにをたべたんだろう。あんなにくちのまわりをべとべとにして。

「あかみがかかった、きいろのもの。」

きのうの夜、それはぼくがたべようとおもってむいておい

たものだった。まあ、でもしばらくおいておけば、だめになってしまったらうから、たべてもらってよかった。

「もも、だろう、それは。」

なまえなんて、知らないわ。ーこやぎはかぶりをふる。ぼくはおさを、流しにもっていく。こやぎもぼくについてきた。スポンジにせんざいをたらし泡だてる。ぼくのひとつひとつの行動を、こやぎはビーズのような目でものめずらしそうに、おっている。

「ふしぎね。」

「そうかい？」

「とろりとおもそうなのに。」

せんざいのパックに目をやる。

「その、あなたの手にのってるものにたらずと、ふわりとかるくなる。」

ぼくは、こやぎのためにちいさなにじいろのしゃぼん玉をとばしてあげた。

「きみは、どこからきたの。」

「さくのなか。」

こやぎのビーズのひとつみは、シャボン玉にくぎづけだった、ばちん。割れた。こやぎのまえあしがすこしあがったのがわかった。

「さくのなか？」

スポンジをにぎりしめると、ずぶずぶとあわが、しぼりだされる感じがした。

こやぎは、うつむく。ぴんくのはなが、くうと、音をたてた。ぼくはわけがわからず、スポンジをただ、ぎゅうと、にぎりしめただけだった。かすかな声がきこえる。それは、とてもかなしそうだった。が、

水のおんおん流れる音で、はっきりとはとどかなかった。ーぼくは急いで水をとめた。

「そのせかいしか知らないもの。」

ほんとうは、しんせんなあおい草をたべたいのに、ほしくさなんてまっぴらなのに。ほんとうは、ひろい草原でけまわりたいのに。もっといろいろなせかいを、見てみたいのに！ぼくは、あわのついた手でこやぎをおもいきりだき

しめた。一でも、今は、一こやぎは言った。
「草原より、ここに幸せがあると思うの。」

ぼくが、赤ちゃんのころねていたクーハンは、こやぎのからだにぴったりだった。そこには、今はチョコレート色のだとか、ぼそぼそのティベアがたくさんつまっていた。「わたしはここでねていいの？」
僕がベアたちをクーハンから出していると、こやぎが言う。一いやかい？ときくと、こやぎはぼそぼそのベアたちにそっとふれて、「このこたちはどうするの？」
「きみがいっしょにねてあげればいい。」
僕はほほえんだ。

いつもの道がいつもより、幸せにかがやいてみえた。すれちがう人も、花も、いしべいも、とくにすてきだったのは、空だ。
なんてきもちのいい日なんだろう！今日は、こやぎのためにうらのとびらを、ほんのちょっと、あけてきた。おもてへ出てもいいように。ほんとうは、もっと、いろいろなせかいを見せあげたかったが、いっぴきで、出て行くのはあぶないから、ぼくの家庭だけである。そういえば、ぼくの家庭に、ブルーベリーがなった。おくばで、ぷちっとかみつぶしたときの、あの感じをぼくはしばし、そうぞうした。

ぼくは、ドアの前ですこし立ち止まった。むこうで、こやぎの走るかつかつという音がした。くもりガラスにまっしろいかげが、ぼんやりと見える。ぴたりと止まったまま、すこしもうごかない。どうやら、ドアがあくのをじっと待っているようだ。こやぎとすごす時間は、とてもしあわせだと感じた。
「ただいま。ぼくはドアをあける。家のあかりは、とてもあたたかだ。」

「ほら、見て。」
てのひらにろくつぶほど、ブルーベリーをのせてぼくは、こやぎに見せた。それは、あらったばかりでぬれていて、つやつやとかがやいていた。
「すてき。まるで、宝石ね。」
こやぎは言った。一食べられるよ。ぼくはそれをこやぎの口の中に入れた。こやぎは、おどろいたような、かおをする。そして、ひとこと一おいしい。と、言った。ぼくも、口の中にそれをほおる。
「あとで、いっしょにジャムを作ろう。」

ぼくらは、ゆうぐれの道を歩いている。こやぎがさんぽをしたいと言ったのだ。ぼくの街には海はないし、商店街へいっても、どこかさびしい。だから、ぼくはちいさいころ遊んだ、空き地に、こやぎをつれていった。
でも、そこはちょっとした丘になっていて、街と、空がぐるりと、見わたせた。こんなところしかなくて。ぼくは、言

おうとしていたことばをのみこんだ。それは、それは、うつくしいものだった。むらさき、ももいろ、オレンジ、あお、くれない。今までにみたことのない、ゆうやけの空。そして、こやぎも、オレンジ色に、そまっていた。
「ちょっと待ってて。」

ぼくは、家まで走った、いままでよりずっとはやく、はやく。そして、バイオリンをつかんで！あの場所にもどった。こやぎはまだ、おとなしく、オレンジ色にそまりながら、うっとり、景色をながめていた。まだ、しずまない。

ぼくは、バイオリンをかまえた。それはもう、ぼくの体にはすこし、ちいさくなっていた。音をあわせる。ふりかえったこやぎに、ぼくはやさしく、ほほえみかけた。

しばらく、弾いていなかったとは思えなかった。体が、指が、すらすらとうごく。だんだんあたりはくらくなって、ぼんやりむらさきが、こくなってきた。なめらかに弓が上下する。こやぎはなにも言わずにきいていた。すこしからだをゆすって。ぼくのバイオリンを、ぼくの曲を。こやぎと、ぼくの見たゆうやけのための、曲。つぎつぎとイメージがわく。コップの水が、あふれるように。いや、その中に入っていたものは、もっと、あまくて、おいしいもの。

あたりはもう、とっぴりと、日がくれていた。かたがじんじんいたい。かたいバイオリンが、あたっていたからだ。でもぼくはとても、みちたりたきぶんだった。こころのなかが、たっぴりと、あたたかいなにかで、うめつくされたような。「もし、まえあしがあがったら、はくしゅしたいくらいだわ。」
こやぎは、まえあしをふみならす。ぼくは、笑った。
「すてきだった。」

こやぎは言った。くらがりにもれない。ほんとうに、まっしろなからだ。

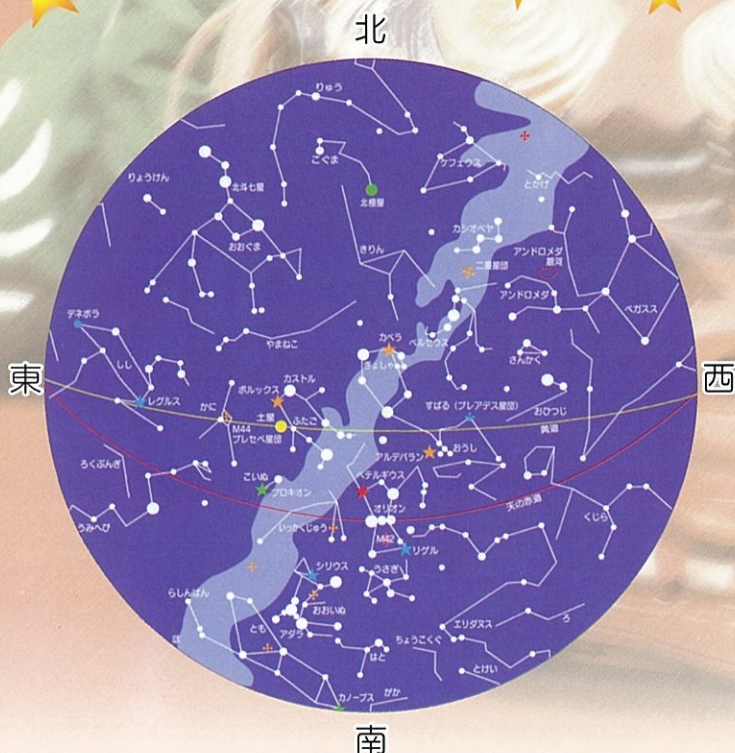
「帰ろう。」
さて、夕飯はなににしよう。かつかつ、たったつ、ひとりと いっぴきの足音が、夜の街にひびく。バイオリンケースを持った男の子と、まっしろいこやぎ。

家に帰って、ご飯を食べたら、ぼくにはやるべきしごとがある。この曲を楽譜にうつさなきゃ。こやぎは、あのクーハンで、ベアといっしょにねるだろう。

「いますごく、生きてるって感じ。」
こやぎが言う、まったくだ。ぼくらはいきている。しあわせだ。ほんとうにしあわせだ。



冬の夜には星を見よう



ほーっと吐く息が白くなる冬は、空気も澄み、年間で最も多く1等星が見える時期です。寒いですがしっかり重ね着をして、夜空を眺めてみませんか？

冬の星座の代表といえば「オリオン座」です。「オリオン座」には中心の三つ星をはさむように、1等星「ベテルギウス」と「リゲル」があります。「オリオン座」の左下には「おおいて座」の「シリウス」があります。星の中で一番明るい星で、－1.5等星という明るさです。「おおいて座」の左には「こいて座」の「プロキオン」があります。「ベテルギウス」、「シリウス」、「プロキオン」の3つを結んでできる三角形を「冬の大きな三角」といいます。このほかにも「ふたご座」の「ポルクス」、「ぎょしゃ座」の「カペラ」、「おうし座」の「アルデバラン」など沢山の1等星が「オリオン座」を中心に見られます。

星空を眺めてみても星座がよく分からないという方は、一度ぐんまこどもの国児童会館で行われる「～星空観察～こどもの国スターフレンド」にいらしてみてください。プラネタリウムで分かりやすく季節の星空を解説し、屋外で観望会を行います。流星群や望遠鏡で見る星の世界は驚きや感動でいっぱいです。

●2月のスターフレンドは……

「土星とオリオン大星雲を見よう！」

日 時：2月26日(土) 18:30～21:00

対 象：親子

定 員：30組(先着順)

事前申込：1月22日(土)から

お申し込み、お問い合わせ

ぐんまこどもの国児童会館

TEL 0276-25-0055

紹 介 し ま す

「伊勢崎市赤堀あさひ児童館」

このコーナーは、県内の児童館を紹介します。
楽しい行事や特色ある遊具などをお話していきます。



伊勢崎市香林町1丁目1348番地1
TEL.0270-63-1616

〈開館時間〉10:00～18:00

〈休 館 日〉日曜日、祝日、年末年始
(12/28～1/5)



もちつき大会



しめ縄作り

県内で一番新しい児童館「伊勢崎市赤堀あさひ児童館」は、平成16年4月1日に開館しました。赤堀地区では3館目の児童館で、赤堀東小学校に隣接して建っています。温かみのある木の壁にシルバーの三角屋根、そしてとても広い庭を持ったモダンな児童館です。

平日の午前中は、地域の乳幼児の親子連れが遊びに来ます。大きな南側の窓から溢れる明るい日差しの遊戯室で、お母さん達がお友だちを作ったり、育児の情報交換をしたり、時には児童厚生員の先生に育児相談をしたり、のんびり過ごすそうです。

うってかわって午後になると、隣の小学校から毎日100人もの子ども達が遊びに来ます。今度は、その子ども達と一緒に児童厚生員の先生は、卓球をやったり、トランポリンなどでわいわい遊びに加わるそうで、児童厚生員がとても活躍している児童館です。

また、月に2回、赤堀地区の3館合同で「あそびの教室」を行っています(会場は赤堀児童館です)。地域の未就学児童とその保護者を対象とした教室で、粘土遊びやシャボン玉、季節行事など楽しい催しを行っています。定員や申込制ではないため、「事前準備が大変ですね」と尋ねたところ、「定員制にしよう」と、本当に来て欲しい人に来てもらえない。地域の人に誰でも気軽に来てほしいんです。」とのお返事でした。

12月11日(土)には「もちつき大会」も行われ、60kgものお餅をついたそうです。お手伝いに80人もの地域の人に参加し、お餅を食べに来た子どもは200人近くいたそうです。

このように地域に密着し、地域になくってはならない赤堀あさひ児童館に、皆さんも遊びに行ってみませんか。きっと、児童厚生員の先生が温かい笑顔で迎えてくれますよ。

編集後記

昨年は12月を迎えても吹き抜ける風があたり、公園では、風揚げをしている子どもの横を半袖の子どもが走り抜けていく姿が見られました。こんなちぐはぐな光景も異常気象の影響でしょうか。ちょっと心配です。平成17年は良い年でありますように。